

第4章 プログラムの固定

96年11月から出荷されているMPC-816にはフラッシュROMを搭載し、オンボードROM化に対応しています。これによりEPROM時代のROM化の煩わしさが一掃されました。プログラム編集後のRUNにより自動的にフラッシュROMへ書き込みます。フラッシュROMに書き込まれたプログラムはノイズやバテリトラブルで破壊されることはありません。MPCは電源投入時にフラッシュROMからSRAM上にプログラムを展開し実行します。

初期化時の注意

今まで通りMPC-816の初期化はMPCINITコマンドです。これによりSRAMにあるプログラム、ポイントデータと変数・パラメーターエリアはクリアされますが、フラッシュROMに書き込まれたプログラムは消えません。電源再投入で再びSRAMに展開されます。フラッシュROMのプログラムのクリアはERASEコマンドです。SRAMとフラッシュROMの全てのデータをクリアするには「MPCINIT」と「ERASE」を続けて実行してください。

```
>MPCINIT
>ERASE
*
```

フラッシュROMの書き込みタイミング

フラッシュROMの書き込みはRUNコマンド実行時です。プログラム編集後RUN無しで電源を切ったりケーブルを抜くと編集データは無効になります。プログラム実行を伴わないフラッシュROM書き込みはFWRITEです。

```
10      FOR I=0 TO 7
20      ON I
30      TIME 10
40      OFF I
50      TIME 10
60      NEXT I
Programming the FLASH ROM *+++++*←書き込み表示
>
```

V_SWAPについて

MPC-816K, KFはフラッシュROM上にZ版も書き込まれており、コマンドにより使用バージョンを切り替えることができます。Z版はMPC-816Z世代の資産と互換になっています。旧装置の保守あるいは、同一仕様での製作にはZ版をご使用ください。しかしながら新規の装置でのZ版での使用は、P版でSOFT-PGが対応されていることもあり効果的ではありません。(1999年8月現在)
バージョンの切り替えは以下のとおりです。

```
>V_SWAP                                <-コマンド入力 "V_SWAP"
  TNYFSC(R) Rev-3.52 [VER-PmaX2044]    <-パワーオンリセット
  Copyright(C) by ACCEL CORP/BC-SOFT
  [300p MPC-816K MPG MODE5|6]K8b8
>MPCINIT                                <-コマンド入力 "MPCINIT"
>ERASE                                  <-コマンド入力 "ERASE"
```

V_SWAPは実行ごとにP版、Z版が交互に現れます。